

2017年度
大学入試
調査報告

大学入試の新トレンド「英語の検定利用」！ どの検定で、どのレベルをめざせばいい？

「英検」の利用が圧倒的、レベルは「準2～準1級」！

教育出版の株式会社旺文社（東京都新宿区、代表取締役社長 生駒大壱）の教育情報センターは、2017年度大学入試（推薦・AO、一般入試）における英語の外部検定利用について、全大学の入試要項の分析を行いましたので、その結果をお知らせいたします。

【大学入試での「外部検定利用」とは】

「推薦・AO」での外部検定利用は以前から行われてきました（例：「出願資格＝英検準2級以上」など）。近年急増しているのは「一般入試」での利用です。センター試験に代わる新しい「共通テスト」では英語試験として外部検定の利用を検討していますが、すでに各大学の「個別試験」では利用が急増しています。入試本番前にあらかじめ外部検定を取得しておくことが、新しい大学入試のスタイルとして広がっていく可能性があると考えられます。

●一般入試での利用例…英検準2級＝入試の英語試験を80点、2級＝90点、準1級＝100点とみなす。

（上記「得点換算」のほか、「出願資格」、「加点」、「判定優遇」など、大学によりさまざま）

【資料①】 外部検定を入試に利用している大学数

入試に外部検定を利用する大学がどれくらいあるかを表したグラフです。利用大学数が増加傾向の中、注目すべきは一般入試。外部検定利用がはじまって3年目の今年度、利用大学が前年から倍増しました。

【資料②】 どの外部検定を受けておけばよいか

入試でどの外部検定を利用するかは大学によって異なります（通常複数の外部検定を採用）。主な外部検定のうち、どの外部検定が多く利用されているかを集計したグラフになります。

学習指導要領に沿って試験がつくられている「英検」が圧倒的な採用率となっています。また大学入試専用開発された試験「TEAP（ティープ）」が今年度、採用率を急激に伸ばしている点にも注目です。

【資料③】 どのレベルを取得しておけばよいか

外部検定を利用した入試で、どのレベルが求められているかを集計したグラフです。各大学が入試で優遇する外部検定の級・スコアを英検級に換算して集計しています。

国の定める第2期教育振興基本計画では高校卒業段階で英検準2～2級レベルを目標としています。

大学入試では準2～準1級を求める場合が大半。準1級を求めるケースは国立大や私立難関大で見受けられます。

【会社概要】株式会社 旺文社

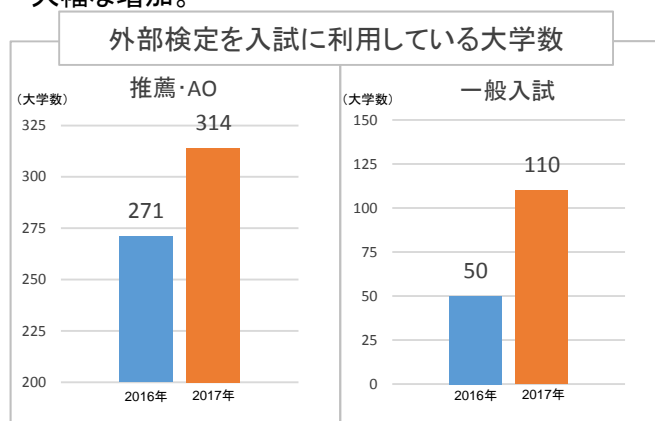
代 表 者 : 代表取締役社長 生駒 大壱
設 立 : 1931年10月1日
本 社 : 〒162-8680 東京都新宿区横寺町55 / TEL.03-3266-6400
事業内容 : 教育・情報をメインとした総合出版と事業
U R L : <http://www.obunsha.co.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】 株式会社旺文社 広報担当

TEL: 03-3266-6400 / FAX: 03-3266-6849 / E-mail: pr@obunsha.co.jp

【資料①】 外部検定を入試に利用している大学数

国公立大、私立大ともに推薦・AO、一般入試で増。特に国公立大の推薦・AOと私立大の一般入試で大幅な増加。



※推薦・AO、一般入試にて外部検定を利用している大学数を集計。複数の学科で利用している場合も「1」と計上。

<ポイント>

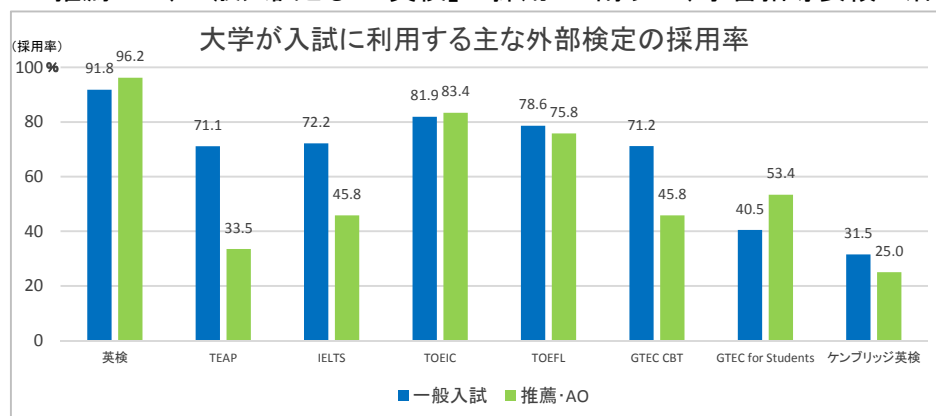
全764大学中、推薦・AOで41% (314大学)、一般入試で14% (110大学) が入試に外部検定を利用。

外部検定の利用がはじまって3年目の一般入試は、今年度利用大学が倍増。今後も急速に数を増やすと見込まれる。

今年度は、国立大の推薦・AO、地方私立大の一般入試での新規導入が顕著。

【資料②】 どの外部検定を受けておけばよいか

推薦・AO、一般入試ともに「英検」の採用が9割以上、学習指導要領に沿った出題が理由と考えられる。



※各大学にて外部検定を利用している入試方式を100とし、それぞれの外部検定が採用されている割合を算出。
 ※原則、学科単位で集計。1つの学科で複数の入試方式がある場合、外部検定の利用内容が同じなら「1」、異なるなら別々に計上。
 ※各外部検定の採用については募集要項に記載されているものをすべて計上。「それに準ずる外部検定でも出願可」のような記載の場合は、上記すべての外部検定が採用されているとしてカウント。募集要項の文面から記載以外が有効と読み取れない場合は採用としていない。

<ポイント>

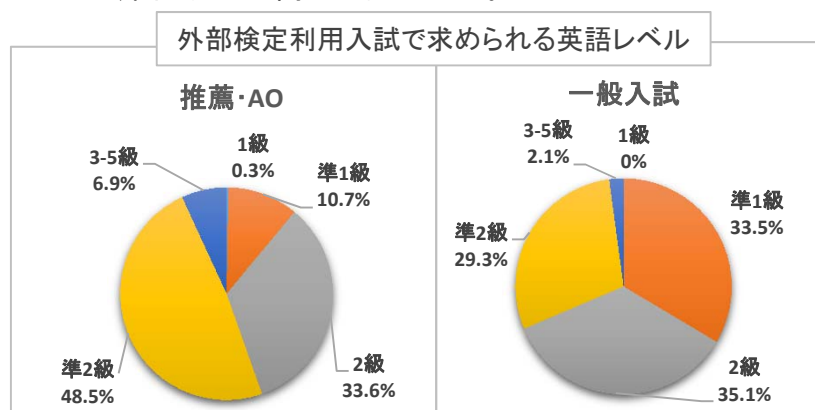
推薦・AO、一般入試とも「英検」の採用率が最多。

大学入試専用試験として開発された「TEAP」。

TEAPが実施されはじめて3年目の今年度、採用率が急伸。

【資料③】 どのレベルを取得しておけばよいか

外部検定利用入試で求められる英語レベルは推薦・AOは標準的、一般入試では高め。私立大で標準レベル、国立大では高めとなっている。



※各外部検定の級・スコアを英検級に換算。募集要項の記載に級・スコアの指定が無いものは除く。
 ※外部検定の級・スコアに応じて段階的に優遇を行う場合、最易級のみを集計 (例:「準2級=80点、2級=90点、準1級=100点」とみなす場合、準2級のみ計上)。

<ポイント>

国が高校卒業時の目標として定めるのは英検準2～2級程度。

推薦・AOと比較して、一般入試では上位レベルを求める傾向。

準1級レベルを求めるのは国立大と難関私立大が中心。